大浦総合研究所
大浦勇三 著

ビジネス梁塵秘抄（十）

学・献・遊

遊びは仕事、仕事は遊び
遊びは仕事、仕事は遊び
仕事は学び、学びは仕事
仕事は学び、学びは仕事
学びは遊び、遊びは学び
学びは遊び、遊びは学び

©大浦総合研究所

目次

はじめに

第一部　【遊】　遊びをせんとや生れけん

第二部　【献】　仕事をせんとや生れけん

第三部　【学】　学びをせんとや生れけん

©大浦総合研究所

はじめに

平安時代末期、「梁塵秘抄（りょうじんひしょう）」という歌謡集が編まれました。平安時代末期は、日本の歴史の中でも先が見えない激動の時代でした。編者は後白河法皇で一一八〇年前後のものといわれます。書名の「梁塵」は、その歌で梁（はり）の塵（ちり）も動いたという故事からとられました。

多くの歌が七五調四句や八五調四句、さらには五七五七七の調子など、さまざまなバリエーションからなります。

通常、「梁塵秘抄」といえば、

遊びをせんとや生れけむ、戯れせんとや生れけん、
遊ぶ子供の声きけば、我が身さえこそ動がるれ。（岩波文庫版）

が有名です。

現在、日本をとり巻く環境は、平安時代末期に負けず劣らずの大変革期にあり、その規模はグローバルな広がりを持っています。グローバル規模の動きになればなるほど、あらためて日本の文化風土、日本人の特性が一段と問われることになります。

この二〇年、日本はなかなか前に進めず、ある意味で後退を余儀なくされましたが、「後ろ向きで前に進む」ことには限界があります。前へ進もうとする以上、きちんと正面を向く必要があります。平安時代の日本人は、乱世の中での人生を「遊び」「戯れ」と肚をくくり、難題や障害と真正面から向き合い、それを乗り越え生き抜いてきました。

二一世紀の我々も、この文化風土と特性をもう一度再認識し、覚悟を決めて思いを深め、生活と仕事に希望と喜びを見出していきたいものです。

本書は、仕事を通じて少しずつ抽斗（ひきだし）にため込んできたものを、真っ平御免の何でもありの形式で纏めたものです。しかし、文学的素養などの力不足はいかんともし難く、お手本の「梁塵秘抄」とは比べることが憚れるレベルの内容になってしまいました。ただ、「遊（遊び）」「献（仕事）」「学（学び）」に対する思いの深さだけは忘れず、無我夢中でまとめたことだけはお汲みとりいただき、なにとぞご寛恕いただければ幸いです。

東京・芝にて

大浦　勇三

©大浦総合研究所

遊

遊びをせんとや生れけん

＊三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粋

©大浦総合研究所

○どこへ行くかわからない　どこにも辿りつけない
失敗の達人　問題を抱えこまず最善と最悪を睨む
人に勝つ道は知らなくも　己に勝つ道だけは知る
マネは御法度　必ず時代は飢えている、と阿久悠

○ベキ乗則の時代　進む方向を間違えぬための蓄積の勝負
破壊的な危機をしのぐには　理詰めの効率追求では無理
ぼんやりとした幸福感　男の剛腕より女の柔軟性の時代
朦朧体　神はサイコロを振らない、とアインシュタイン

○専門や科目には限定されない総合力・教養
ただ教養は教養として学ぶことはできない
そもそも全ての創造はマネから始まるもの
バッハもたくさん色んなマネをしたらしい

©大浦総合研究所

献

仕事をせんとや生れけん

＊三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粋

©大浦総合研究所

○人に固有のローカルルールや基準がはびこることも多い
歴史は逆説に満ちて人々の純粋な意図や目的をあざ笑う
過酷な結果が突き付けられるのを甘受　重荷が人を造る
エベレストの頂上の環境に適応せよ、とジム・コリンズ

○技術立国日本　開発力と応用力の地力の格差
世間の風に乗れればよいというものでもない
読者の間に五十％くらい伝わったときに描く
八十％浸透あとでは古い、とサトウサンペイ

○一〇〇年・二〇〇年　この世の花が内包する小さな力を結集する営為
人間が見ていても見ていなくとも　咲いては消えていくのが栄枯盛衰
能や歌舞伎の型は武術と共通　能面は剣術の稽古での手の働きの制限
最も力が入る個所を抑制することで潜在力を呼び覚ます、と多田容子

©大浦総合研究所

学

学びをせんとや生れけん

＊三〇ページ、九〇文より
一ページ、三文を抜粋

©大浦総合研究所

○自然に対する諦念　コツコツ努力し、いざという時はすぐ諦める
人間のやることにどんでん返しは付きもの　頭から決めつけない
順調と思っていても　何を基準にするかによって評価は逆になる
協働する作法を叩き込む　人のことを学び続ける、とトーリ監督

○難しいことを簡単に考える習慣　己の手で編集するのが一番
挑戦　批判されないようなものは最初から創らないのが得策
老人は目的・制約から解放される　芸術家と同じようなもの
だから老人というのはクリエイティブなはずだ、と横尾忠則

○ダルマに遇ったらダルマを殺す　自分のほかに権威をつくらない
後悔して引きずらないこと　同じ色を一〇〇回以上は塗り重ねる
少ない色の数を重ねて味を出す　見える化より情熱を秘めたヘタ
うまいピアニストは多い　オスカー・ピーターソンは幸せにする

©大浦総合研究所

大浦勇三（おおうら ゆうぞう）
oura@office.email.ne.jp

大浦総合研究所　代表
http://www.mmjp.or.jp/ooura/

早稲田大学卒業、筑波大学大学院修了。
米国大手コンサルティング会社 アーサー・D・リトル 主席コンサルタントを経て現職。
主担当領域は、経営改革、経営戦略＆情報通信技術（ＩＣＴ）戦略策定、業務改革／組織改革、研究開発／商品開発マネジメント、ナレッジマネジメント＆イノベーションマネジメント、人材マネジメント、コーチング＆メンタリング、プロジェクト＆プログラムマネジメント、ベンチャービジネス支援等のコンサルティング。
主な著書には、

・「イノベーション・ノート」（ＰＨＰ研究所）
・「ＩＴ技術者キャリアアップのためのメンタリング技法」（ソフトリサーチセンター）
・「よいコンサルタントの見分け方、かかり方」（清語会）
・「ナレッジマネジメントが見る見るわかる」（サンマーク出版）
・「図解 ナレッジ・カンパニー」（東洋経済新報社）　ほか

その他新聞、雑誌、ウェブサイトへの寄稿多数

「ビジネス梁塵秘抄（十）」（抜粋）　著者　大浦勇三

二〇一四年一一月　初版　第一刷発行

大浦総合研究所

〒二七〇・〇〇三四　松戸市新松戸七・五四三

©大浦総合研究所
大浦総合研究所の許可なく複製・改変などを行うことはできません。